



令和4年7月24日(日) 9時～

一般観覧中止——

開催迫る

全 国の高校書道部が日本一を目指す「書道パフォーマンス甲子園」。15回目を迎える今大会では、初めて優勝校に文部科学大臣賞が贈られる。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、残念ながら今年も一般観覧は中止となった。そのため、しこちゅうホールでは誰でも大会の生中継が観られるパブリックビューイングを行うほか、コスモスチャンネルで全編生放送される予定だ。

市民の皆さまからの熱いエールを、会場まで届けていただきたい。

7 月24日(日)に行われる本戦には、全国7ブロックの予選を勝ち抜いた20校が出場する。(4ページ下段参照)

大会2連覇中の松本蟻ヶ崎高校(長野県)、古豪の五日市高校(広島県)や八幡中央高校(福岡県)など、歴代優勝校も順当に予選を突破し、まさに頂上決戦にふさわしい顔ぶれだ。

今回、唯一初出場となったのが、書の名門校として全国に知られる仙台育英学園高校(宮城県)。5回目の挑戦にして悲願の本戦出場を果たした。

そして本市からは……

2大会連続 11回目

三島高等学校

「優勝します」

恒石真央部長のコメント

自分たちがずっと頑張ってきた事が、本戦出場という結果になり、とても嬉しいですね。地域の方々や保護者、先生に支えられて掴み取った本戦出場です。より洗練された作品と演技で絶対に優勝します。

福本温子顧問のコメント

二校が一緒に本戦に行ける事が何よりも嬉しいですね。予選では、昨年と戦い方を変えた分、不安はありましたが、結果が正しさを証明してくれました。生徒たちには、自分たちの方向性を信じて、感謝と謙虚な気持ちで優勝を狙って欲しいです。

8大会ぶり!

三島高校・川之江高校 本戦 W 出場!

8大会ぶり 3回目

川之江高等学校

「感謝を胸に」

西岡愛海部長のコメント

みんなで手を握りあって発表を聞いていました。川之江高校の名前が読み上げられた瞬間、「キヤー」と声をあげ、部員全員で喜び合いました。夢の舞台である本選では、周りの方からの「愛」によって自分たちが成長できたことへの感謝を表現し、優勝目指して頑張りたいと思います。

佐藤咲顧問のコメント

生徒たちは、昨年の悔しさをバネに頑張ってきました。本戦では、支えてくださった方々に感謝を伝えられるよう、魅力ある作品と演技を披露して欲しいと思います。



第1回優勝 三島高校メンバーに聞く
「私と書道パフォーマンス甲子園」

いしかわ みさき

1990年 村松町生まれ。
三島小→三島東中。
三島高校3年の時に第1回
書道パフォーマンス甲子園
に出場し、優勝。
2013年 愛媛新聞社入社。
生活文化部やスポーツ部な
どを経て、22年春から東
予支社新居浜編集部。

何かを伝える
手段のひとつ
だった。

interview

石川美咲さん

愛媛新聞社 東予支社 / 記者

自らの書道パフォーマンスをそう振り返ってくれたのは、愛媛新聞社東予支社の石川美咲さん。
今から14年前の7月27日に開催された、第1回書道パフォーマンス甲子園の優勝メンバーだ。
今回、母校である三島高校の書道教室をお借りし、当時の事を振り返ってもらった。

書道と私

祖母の家の隣が書道教室で、小学校から習字を習っていました。ずっと続けていた習字を高校になっても続けたいと思い、三島高校に入学しすぐに書道部に入学しました。

当時は書道パフォーマンスという名前ではなく、書のデモンストレーションとして、いろんなイベントに呼ばれて演技をしていました。そして私が3年生の時に、書道パフォーマンス甲子園を開催するので参加しないかと声が掛かりました。

あの夏の日を振り返って

暑い日でした。休憩させてもらった近くの食堂が、とても涼しかったことを覚えています。

それまでいろんなところで演技をしてきましたが、商店街の交差点が

会場というのは初めてでした。審査員や観客に四方を囲まれての演技は、新鮮であると同時にとても緊張しました。

参加校が3校だったこと、また交流のあった学校だったこともあり、「競う」という感覚はあまりなく、純粹に楽しかったと記憶しています。水引で作られた大筆の優勝旗を受け取った時に、「ああ、優勝したんだ」と実感が沸きました。

今につながっている

今思えば、日々の作品づくりも書道パフォーマンスも、私にとっては「何かを伝える手段のひとつ」だったと思います。大学時代にはサークル活動でフリーペーパーを作り、今では新聞記者として「伝える」ことを仕事にしています。残念ながら記者に求められるのは、文字の美しさよりスピードですが（笑）。

楽しい事もしんどい事もありましたが、高校の3年間を何かに打ち込んで「やりきった」と思える事が、直接的ではなくても今につながっていると思います。

参加する選手たちへ

この大会が、書道部として最後の活動になる選手も多いと思います。このメンバーで作品を作ることはもうないかもしれませんが、その一瞬を大切に、やりきって欲しいです。

頂上決戦の出場校はこちら！

